

## 第3節 アソシエートの想い

### (初契約順 15名)



#### 浅井 照子

浅井照子さんは英語科教員としてノートルダム女学院中学・高等学校に1962年から1998年までお勤めになりましたが、浅井さんとノートルダムのご縁はこれだけではありませんでした。浅井さんはシスターパトリシアと聖書を読むなど、キリスト教に大変関心をお持ちで、後に洗礼を受けられました。その後教会メンバーとしても積極的に奉仕をされ、聖書講座などにも熱心に参加しておられました。

そうした中で浅井さんは1995年5月、日本におけるSSNDアソシエート第二グループの一人として他の2名の方々と共に初契約をされ、それ以来12回の契約更新で、24年間をSSNDアソシエートとして歩んで来られました。そこで浅井さんにお訊ねしました。

問い：なぜ、アソシエートになろうと思われたのですか？

答え：マザーテレジアの伝記『船主の娘』を読んで、マザーテレジアの勇気と行動力に感動しました。そして、マザーの勇気と行動力に通じるものをシスターたちにも感じたことがあったからです。マザーテレジアの『一日一語』にも結構目を通していたのですが、刺激を頂く言葉に度々出会いました。「全て神の業は時間をかけ、ゆっくりと、しかも苦しみのうちに生み出されていきます。そのとき、その根はたくましくはり、その花はみごとです。」これは折に触れて力を頂く言葉です。



(初契約 1995) (文責 Sr. ジュディス)

#### 古川 優子

私はノートルダム女学院高校、第4回の卒業生です。ノートルダム女学院が創立40周年を祝ったとき、同窓会会長として式典に与らせていただいたことを嬉しく思い出します。

同窓会長を終えた時、ノートルダム教育修道会の精神を共に生きる「アソシエート・プログラム」に参加しました。現在、アソシエートとして、シスター方とアソシエートの方々から、よい刺激と励ましをいただき、また、キリスト者として、心身の痛みや苦しみを持っておられる方々に心から寄り添い、傾聴することによって、ささやかなものですが、ノートルダムの精神を生きようとしています。

(初契約 1995)

#### 丸住 和子

イエスの御母聖マリアは、イエス亡きあと使徒ヨハネに引き取られ、生涯を終えられた、と記されている聖書の言葉から、私の中でさまざまに



膨らんでいく想いがありました。

使徒ヨハネがミサの準備をされる時、きっとマリア様が手伝われたに違いない。ある時は幼児イエスの面影を偲んでほほ笑み乍ら、ある時はヨゼフさまから大工仕事の手ほどきを受けられる少年イエスを、そしてゴルゴタの丘での一部始終を、息を引き取られたイエスを抱かれている思いで涙のうちに晩餐の用意をされたに違いない、と。

御子イエスが最も強く願われた、「世の終わりまであなた方と共にいる」ことの実現の為にこのような驚くべき発想をされたということを御母は最も深く理解されていたに違いない。私もいつの日かミサ準備のお手伝いがしたい、香部屋の聖母のはしためとして。

一方、私は成長するにつれて、生涯を主に奉獻したいと強く望むようになりましたが、叶えられず、家庭の主婦として五人の子供の親として明け暮れ奮闘するうちに？十年が過ぎ気がつくともう？十歳！

ところが何時の間にか私は教会の典礼部の中に、またノートルダム修道女会のアソシエートの一員に迎え入れられていたのです。

若い時の二つの夢がこうして私の上にはからずも実現している事は、大きい喜びであり感謝です。ノートルダムの一員として、ミサ準備をさせて戴けることを此の上なく嬉しく存じます。

(初契約 1997)

#### 仲兼久 幸子

ノートルダム教育修道女会、日本ミッション70周年



おめでとうございます。

娘の幼稚園入園に始まり、キリスト信者、アソシエートとして、SSNDのあたたかい交流にあらためて感謝いたしております。修道会日本ミッションの時の流れの中でアソシエートの恵みにあづかり、うれしく思いました。

初契約にいただいた「信頼と勇気」の中でマザーテレジアの使命として、「キリスト教的教育によって、家庭生活が刷新され、それが、社会に積極的な改革をもたらし、女子教育にたずさわる」…ことに力づけられる思いがいたしました。私の住んでいる地域の人々と共に特に女子への「男女が共につくる社会を旨す」助けとなる条例づくりへの参画、そして家族関係で悩んでいる人々の関わりなど、アソシエートとしての祈り、シスター方お一人お一人のカリスマ性が私を勇気づけ、平安な気持ちで進めることができたこと。そして、今回はミッション70周年の節目を祝う機会をいただけたことは本当に幸せなことと思います。

(初契約 2001)

#### 岩間 恵世

2003年5月11日のアソシエート契約式から16年になりますが、丁度教会の婦人会長になり、色々と戸惑いを覚えていた時でした。試練と学びの時だったと思うのですが、曲がりなりにも無事にその任務を果たさせて頂きましたのは、シスター方との密接な関わり、ご指導とお祈りのお蔭だったと痛感し、全てに感謝しております。今も教会で皆様と和やかに、楽しく奉仕させて頂いております。



幼い頃より現在も変わりませんが、心からシスター方を敬愛しております。両親が何より宗教を重んじ、シスター方を尊敬していたのを肌身で感じていたからかもしれません。当時娘の校長であり、私の恩師であり、先輩である Sr. ポーラからアソシエートの打診を受けた時は、恐縮と共に飛び上がる程の喜びであったことを昨日のように覚えております。

『レーゲンスブルグ船主の娘』の「神は必ず全てを良い方向に向けてくださる」というマザーテレジアの言葉や、修道院での『ラウダート・シ』の講師として来日くださった Sr. ロクサーンの「Stay in love.」の言葉は今も心に響き、大切にしています。

マンケートでのアソシエート会議に出席させて頂き、セントルイスにも訪問させて頂きました。日本のシスター方と同様、神様の愛の眼差しで包んでくださり、誠実に懸命にご奉仕されているシスター方にお会いでき、来日して下さったシスター方の歴史にも触れることができ、感激致しました。

初契約の折、地区長が「家庭にあって同じくマザーテレジアの精神で福音を生きようとしておられます。」宣言して下さったように、マリア様の娘として、兄弟姉妹のうちに、いつもイエス様に仕えることができますように。「神の国」の実現のために聖霊の賜を願いたいと思います。

(初契約 2003)

## 池間 初子

ノートルダム教育修道女会の70周年記念をお迎え



して、心からお慶び申し上げます。

私が最初に感動したのは、アソシエートの仲間久 幸子さんと一緒に京都に訪問して、SSND の教育施設や修道院を案内して下さった時、シスター方のすばらしい活動に感動いたしました。私の小さい頃は、このような教育環境が全くありませんでした。本も無く育ちました。しかし、母親からもらわなかった分、その教育的な環境に大きく感銘を受けました。振り返ると、その心を与えてくれた自分の母親にも感謝することができました。そして、私は、シスター方と不思議ないい出会いをしていることに気付きました。先ず、私が子育てをしている時、シスター方に出会わせていただきました。教会に来たいと思って電話したら、シスターヴァージニアが出られ、いろいろと教えていただきました。

子育てが終わって一段落した時は、シスターマリエッタに聖書100週を教えてもらいました。3シリーズも受け、その後、アソシエートに入り、シスターフランシスと SSND の勉強をしました。また、シスターマリエッタとは、セブンステップの勉強を続けました。シスター方からいろいろな刺激を受けました。シスター方の後ろ姿をみて、私達との違いは何かと思います。毎日ミサに与かるようになりました。一人ひとりの方から違ったものをいただきました。そして、その時々、シスター方と出会い、仕事を丁寧に行っている姿を見て、感銘を受けました。

更に SSND のアソシエートの仲間と出会って、勉強し、分かち合いをして、深いものを得て、続けてきました。途中、すこし休んでいた時は、自分もアソシエートとして何かしたいと思ったけれど、何をすれば良いか分からず、休みました。でも、また、みんなが快く迎えてくださり、祈っててくださいました。

SSND は、宇宙的で、スケールの大きさを感じ

ています。社会とのつながりがあり、この出会いが、自分を生き生きとさせ、大きな恵みを体験し、味わいました。

今、私の心に創立者マザーテレジアの旅に参加させていただいた時のマザーの祈る姿が一番心に残っています。

(初契約 2005)

## 宮城 鈴代

朝ミサに向かうとき、思う。名護教会のそこに修道院が在ること、そのことが本当に有り難い、と。決して大きくはない光だが確かに絶えることなく灯っている、大胆にも一生を神と繋がることに賭けた女性達が、そこに確かに居る、私達の希望を示している灯。私達のすぐ傍で共に祈り、働き、生活している、そのようなシスター方の存在が、本当に有り難いと思う。

プロテスタントで育った私は学生時代以後は、宗教的生活から遠く離れて過ごしてきた。その期間キリスト教に持ち続けてきた不信感を溶かしてくれたのは、シスターフランシス田北のその人となりであった。深い息遣いの内に自由でいて、嘘のない誠実さを感じさせる人にこれまで出会ったことはなかった。カトリックの信仰をもてば、そのようになれる希望があるんだ、というそんな風に思った。でもその後も、心の鈍い私は随分と時間も手間のかけて貰わなければならなかった。今思えば、本当に丁寧で暖かい手を私に差し伸べてくれたのだと思う。私だけでなく名護のアソシエイトはフランシスのあの混じりけのない誠の



指導で見守られ育てられたと思う。

名護教会や愛楽園教会の皆の信仰が確かなものになるようにと、深いところでの奉仕に心をこめて下さったシスター方、シスターマリエッタ山田、シスタークレア小原、シスターマリア斎藤、シスターメリー徳永、シスターグレイス中井、名護で出会ったシスター方への感謝の想いを私はこれからもずっと黙想し続けたいと思う。シスター方の人生の日々がこの名護の地を清く潤してくれてきたのだと思う。おかげで、今、私は、やっと私自身で神と向かい合えるようになった気がする。何という安らぎと静かな喜びであろう。修道会、シスター方の働きに感謝をする年、修道会の70周年という、神の下での時の中身の豊かさの全ては私には想像できないが、その神秘・奥義を少しでも感じられるように精進したいと思う。

(初契約 2005)

## 吉川 みづほ

お寺のお坊さんが子供達の遊び相手だった時代、幼い私にとってシスターや志願者の方々はお友達でした。

生徒時代も職を得た場もノートルダムという環境でした。退職の時が来る頃、人生の約90%をシスター方のご指導のもとに過ごし、そして育てていただいたノートルダムを完全に去ることが勿体なく、何らかの形でノートルダムの理想と精神で、社会に少しでも役に立つという形で、信仰で、祈りで繋がりつづけていられたら何と有り難いことかと思っておりました。

幸いにもアソシエートへのお誘いを頂きました。



「私達の神は私達全員がかかってしても出来ない程、私達を愛し、心にかけて下さいます。しかし私達も又、私達の手と心であなた(達)を支えているということを知っておいて下さい」という言葉に励まされて、十分な資格もないままにアソシエートの仲間に加えていただくよう申し出ました。

今日、神への信頼とマザーテレジア・ゲルハルディンガーの精神に結ばれてシスター方やアソシエートの皆様と共に歩めることを心より感謝しております。

(初契約 2007)

### 寺西 みどり

2001年の夏、私はボルティモアのSSNDマザーハウスを訪れました。当時私はアメリカ・カトリックの海外ミッションについて研究をしていて、ノートルダム教育修道女会の資料閲覧の希望を受け入れていただいたのです。そのこと自体大変ありがたく、感謝の気持ちを今も忘れていません。けれども、マザーハウスに集っていた現地アソシエートの皆様の、マタイの福音を連想させるホスピタリティーには、更なる感銘を受けました。ただただ連日、心細い思いで、資料室でゴソゴソしている見知らぬ外国人の私(小さき者)に暖かい声をかけ、度々お茶やコンサートにも招いて下さいました。修道会の情報や、小さなプレゼントもいただきました。アソシエートのグループの意味も、存在すらも知らなかったのに、このような人々がいらっしやることに随分驚きました。不思議がる私に、貴女を信じ、愛しているからよ、と、複数の方がおっしゃ



いました。帰国後、日本にもアソシエートがいらっしやるを知りました。私はどなたのお誘いも説明も受けず、自ら希望してアソシエートの門を叩きました。あの方々のようにになりたいという一心でした。

(初契約 2007)

### 保良 逸子

ノートルダム教育修道女会70周年のお祝いを申し上げます。

私は、若い時、老人ホームに就職して、シスター方に出会いました。シスター方がお祈りしている姿を見て、自分達と違う世界を感じました。その後、本部に帰り、シスターフランシス、シスターマリエッタに出会い、勉強会をするようになりました。そして、シスタークレアが洗礼の勉強を見てくださり、洗礼を受けて、結婚をしました。

初めは、信者であることを自分の村では言えなかったのですが、勉強してからは、今の自分のまま、信者として生きていいことが分かり、伝えられるようになりました。シスターフランシス、シスターマリエッタからそのことを学びました。

最初は、アソシエートの方に誘われて、何気なくアソシエートに入り、シスター方のことが分からずにいました。でも、たくさんのお恵みをいただいたので、何かしないとイケないと思いました。何もできなくて、勉強会にも出席できないことが多かったことに心を痛めましたが、その時、シスタールスから、何もできなくても、いいのよ。と言われて、シスター方とつながっていてもいい



のかなと思いました。今は、月一度のアソシエートの集いでの分かち合いが、自分自身を取り戻す時となっています。主人も応援してくれているので、これで良いと思っています。

(初契約 2007)

### 栗本 嘉子

宣教70周年誠におめでとうございます。

今年の四月に入って間もないころ、5人の中一が校長室を訪ねてきてくれました。「校長先生、白いマフラーを見せてください。」あゝ、あの話ね、と私はすぐに書棚の特別な場所から白い毛糸で編まれたマフラーを取り出しました。そのマフラーにゆっくりと優しく、またうやうやしく彼女たちの小さな手が触れました。彼女たちは小さく、感嘆の声を上げました。50歳をゆうに超えた私の手が持つこの白いマフラーを、13歳の少女たちの柔らかい手が触ってくれている。ふとその時、シスターユーヅニアは、このような日が来るとご存じだったでしょうか?と、私は思いました。私が18歳の頃、ご一緒に聖書を読んでくださったシスターユーヅニアが、クリスマス前に私にプレゼントして下さったご自身のお手製の白いマフラーは、今に至るまで私から離れず、気がつけば私のすぐ近くにいつもありました。

学校がどれほどのパッションで創立されたか、初代校長シスターメリーユーヅニアやシスターヴィヴィアン、草創期のシスター方はどれほど異文化の中で暗中模索をされながらこの学校を作ったか、本校はそのような方々のミッションへ



のパッションで成り立ち建てられた学校なのだと、中一の生徒に向かって熱く語ったその日の放課後の出来事です。宣教70年を超えて、私たちが受け継ぐノートルダム教育の真髄、それは神の愛の教育であるが、これを、この白いマフラーをバトンにして、次の世代へと引き継いでいこう、そのことを、校長室を背にする彼女たちを見つめながら改めて思っていました。

(初契約 2009)

### 水瀬 博子

“人が変われば世界は変わる”

日常生活の中で、落ち込みそうな事も、多くありますが、この力強い言葉を思い出すたびに、勇気がわいてきます。

同じ志を持つ方々と共に、祈り、活動し、歩む事ができるのは、おおきな喜びです。

(初契約 2011)



### 草野 陽子

今、アソシエイトのお仲間に入れていただいた私自身を振り返ると、これこそ私をこれまで導いて下さった、神のみ業である、と確心を持たざるを得ません。



もしも、京都に生まれてこなかったら。

もしも、高野教会に行っていなかったら。

なぜなら、シスター方が多く高野教会の御ミサにおいでになっておられましたから。

もし、最初に思い切って教会に飛び込んだ時、何もわからなくて、シスターにお声を掛けていなかったら。

そして洗礼を決意したきっかけのお言葉をシスターからいただかなかったなら。そして洗礼まで手を引いて下さったのも、シスターでした。信徒になり、シスターに繋がっていたい、とお伝えしましたら「道があります」とアソシエイトを教えられました。

そして今、アソシエイトとして、温かく寄り添い、家族のように接していただいていることに大きな感謝と幸せを思わずにられません。

謙遜と滋しみの心、そして他を思いやられる、正しくイエス様の智恵、マザーの教えをお倣いになっておられる御姿勢に接する時、未熟な私を顧み、学ばせていただいています。最初にシスターからいただいたお言葉「苦しみは味わうものなのです」このお言葉が弱い私の歩む道をいつも支え、前を向かせて下さっています。

いつもありのままの私でいられますように。

神に委ねつつ。

(初契約 2013)

## 久保 洋子



SSND 日本ミッション 70周年を心からお祝い申し上げます。

このような大きな記念を共にお祝いする恵みに感謝の喜びでいっぱいです。

私のアソシエートとの出会いは、シスター・ルース森から「心を耕してみませんか」とのお声掛けがきっかけとなりました。私は受洗から約半世紀あまりの年月、自分の内面に心に向けるよりも目に見えることのみに関心をもって過ごして参りました。退職や転居を機に、ぼんやりと時間に拘束されない生活がしたいと思っていましたが「心を耕す」という新鮮な言葉に出会い導かれるように「日々の黙想」に参加させていただきました。それから3年間、シスターのご指導の下に、振り返り、思い巡らし、自然の声に耳を傾け、祈り深める豊かな時間をグループの方々と共に過ごすことができました。特にこの振り返りをおして主イエス・キリストとの出会いと、どんな時にも主はともにいてくださったと気付かされたことでした。気付きは静かな時間を持つことから生まれるということも学びました。

SSNDの創立者マリア・テレジア・ゲルハルディングの生き方、勇気ある行動にも感動させられ、私は2017年にアソシエートメンバーに加えていただくことになりました。貧しく罪深いものではありませんがともにいてくださるキリストに信頼し、その使命に応えられるよう歩んで参りたいと思います。これからも何卒ご指導ご鞭撻よろしくお祈り申し上げます。

SSNDのますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

(初契約 2017)

## 垣花 和子



2017.6.11 アソシエート初契約の日から、2年が立とうとしています。今年の新の日を心待ちにしているところです。

“ノートルダムの精神を生きる”と強い意志があったわけではなく、教会の共同体の中で出会うシスター方、アソシエートの方々の中にある良いもの(善いもの)に引かれたのが入会の動機になったような気がします。

月例の分かち合いは、私の霊的成長を促してくれます。今、「祈りのカレンダー」と「シャロームだより」を読み、SSNDと共に生きることに努めています。

祈りが習慣になることを目指して…。

(初契約 2017)



創立者福者マリアテレジア(唐崎)  
Foundress Blessed Mary Therese at Karasaki